

え・が・お



つくばみらい市立谷井田小学校学校便り

平成27年2月24日 NO. 11

つくばみらい市立谷井田小学校 文責：渡 辺

～有終の美を　今のがんばり組んでほしいこと～

前号でも掲載しましたが、「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われています。これは「1月は正月があり忙しく、2月は元々28日で普通の月より短く、3月は年度末でやることが多い。だから日が過ぎるのが早く感じる。」といった意味です。

今の学級のメンバーで過ごせるのもあと約3週間です。そして6年生は卒業です。

「今の学級は素晴らしい学級だった！最高だった！！」と自信をもって言えるようになるために、今からできることをじっくり考えられる最後のチャンスが、この時期です。

学級という素晴らしい最高の集団（社会）をつくるために、自分は、自分たちは何ができるのか。それを学級の仲間とじっくりと考え実行していくこうと努力できる谷井田小学校の児童を育て、有終の美が飾れるよう、全職員一丸となり取り組んで参りますので今後ともよろしくお願ひいたします。

このように考えられる児童は、将来も「自分だけではなく、人の幸せも大切に考えて生きるステキな人に」なれるはずです。ご家庭でも児童の一年間の生活を振り返り、成長した部分を大いに褒め、来年度へのやる気を引き出して頂きますようお願いいたします。

「プロ野球選手から学ぶこと」

プロ野球の開幕まであと約一ヶ月となりました。選手達は毎日ハードな練習に取り組み、開幕一軍のメンバーに残れるよう体を鍛えているのは皆様もご存じのことと思います。

毎年当たり前のようにレギュラーの座を獲得し、当たり前のようにグラウンドでプレーしている選手達の共通する悩み（不安）があるそうです。

それは、投手であれば「もし一球もストライクが入らなかったらどうしよう。もし一勝もできなかったらどうしよう。」であり、打者（野手）は「もし一本もヒットが出なかったらどうしよう。」だそうです。

あのメジャーリーグで活躍しているイチロー選手や田中投手、上原投手や読売ジャイアンツの阿部選手ですら不安を感じるそうです。

その不安を消すために、苦しい練習を行うのだそうです。自分を追い込み最大限の準備をすることで、「私はこれだけやったのだから大丈夫」という暗示をかけるのだそうです。

またレッドソックスで世界一となった上原投手はこのようなことを語っていました。

「子どもの頃は周りの仲間はお金持ちでたくさんのおもちゃを持っていて、大きな一戸建てに住んでいた。自分の家は貧しくて団地住まいだった。おもちゃもなく、団地の狭い通り道でキャッチボールをして遊んでいました。もし自分がおもちゃをたくさん持っていたら今の自分はない。貧しかった時代の狭い道幅でのキャッチボールの経験があったから、世界で通じるコントロールを身につけられました。」

自分に与えられた環境を嘆くのではなく、その中で何ができるのかを考え、最大限の準備（努力）をしていくことを教えられました。

ご家庭でも話題にしていただけけると幸いです。



「卒業式や修了式を迎えるにあたって」

毎年、卒業式や修了式を迎える時、子ども達に考えてほしいことがあります。（昨年度も掲載しました。）それは、自分を支え、助けてくれた人への感謝の気持ちです。人は誰も一人では生きていけないことを自覚する、感謝の気持ちを表せば感謝の心が返ってくる。これが人生の法則かもしれません。お父さんやお母さん、家族、地域の方々、学級の友達などに對して「ありがとう」の言葉があふれる3月にしてほしいと思います。